

大正十年春

河毛勲先生御著述

弓矢道心得

常射心得

信義謹寫



目錄

第一章

弓矢之道心得

一一一頁

第二章

常射心得

一一二頁

第三章

追加

一一五頁

乙五頁

愚述

唐老の幼少より武道を好し其道ヲ確知シタレバ天泉ノ執持虛弱加ふニ
鉄オビテ其著威文亦振剛道ヲ然レモ熱心ノ後果彰難ク武術ノ元所ヲ
要テ之レ空ニ志モ不償償ナリ然ルニ武術行ハントハ時代アリシモノ中絶
セシガ武徳會建復セシレ以テ一時ノ志者モ多ク而テ其數ニ七拾有ニ思フニ
旧時ニ各種武術トモ技術ノ達々ニ隨テテ何段ト云フ名稱ヲ授受ス又但シ
家々ノ流傳ニマツテ名稱ハ難クニ莫ナレバ初めヨリニ其正或ハ四段ニ込割ハ
三段ノ之行ハ其ハ皆信テテ志者ガ傍觀セシニ能ク武術ノ流傳ノ般ニ
達々ニ其者ヲ口傳テテ其口傳ニ其ニ敢テ就クト云々急スアラサレバ技術
其著者ニ達々テ其神其信ニ玉ウサレバ傳テ授テテモ何ゾノ効ナリハ
勿論有テ其害ヲナメテテ其著者ニ要シテハ傳ヘサルト又但シ其人大
ニヨリテ技術ノ上達スルモ其神ノ深處不達ナリテ其流ノ主意忘テ申用ガレ
モノナリ又技術ハ下レバ其神其信ニ達シタレバ其神其信ニ達シタレバ其神其信ニ達シタレバ

宿直目 調伏目 新納目 城特目 矢入目 ノ各積アレバ 彦屋目 ト
矢入目 外ハ 説明テ 字ニ 此中ニ 彦屋目 トソ 乃道ノ 大事ナリ 鳴弦法ハ
引目 法ハ 此ニ又 時處 場合ニ 多ク 射放テ 出来ザル 時ノイテリ 又射時ニ
及バザル 時ノイテリ (鳴弦ノイハ 城彦屋 沙在 佐ノ 時 但し 字 錯 拾遺 物 港ニハ
白濁 陸トナリ 戦家 朝臣 南 庭ノ 舊大庄ニ 候ニテ 御惱ノ 射限 鳴弦セテ
レシテ 見ユ又 東 鑑ニ 男 永ニ 年 鎌倉 衆家 衆生ニ 改メシ 時 弦 打シテ
見ユ又 禁 和抄ニ 雷 鳴ノ 時 古ハニ 上 卿 衆 御 佐コ 古キ 御 前ニ 候セテ
諸 衛 衆 國ス 後代ニ 及ビテ 弟人 衆口 馬キ 持テテ 沙 標ニ 候ニ 懸 流 暴 弱
御 堂ニ 言テ 鳴 弦セシテ ラルノ 後 僧ト 見ユ 又引目ノ 法ヲ 行フハ 斯ニ
場所ニ 斯ニノ 誤テ ナレテ ナ 秘ニ 射放ツト云フハ 式 沙 法ニ テノフニ
引目ノ 法ノ 本旨ニ アテズ 漢土ニ 在ル 桑ノ 乃 蓬 萊ノ 矢ハ 本ヲ 以テ 天地
四方ヲ 射トサザリ 本 射ニ 於テニ 平家 物語 御 座ノ 卷ニ 山 松 堂 堂カ
桑ノ 乃 蓬 萊ノ 矢ハ 本ヲ 以テ 天地 四方ヲ 射ラシテ 見ユ 此 法ハ 以 何 故ニ

主事ナルヤ 愚老に如き所ナレバ然流俗ニ同云ト云ハ然ルヤ云
 大に述ビ但し其樹家ニテ月日ノ法ト 弊ヲ糾止メノ法ト矢張り、敢
 ケ余ノ中一季擲シト欲シテ余ナ三付ト爲ケ流俗トモ親付トモ
 之レ他ナシ前ニ述ベレヤ心昔ニ至リテ付テ推テナレ何カノ勸ナキ意
 ナリ然レ今世斯道衰ニ行ハルニ付時者伴ト述ベテ以テ老
 ニ憐セトス 但レ之レヲ述ベントモ當リテ故ニ言セサル所ナレ余物同
 ノ舊託ハ支那ノ文ナリ利用シテ詞ヲ記シタムノてハ支那ノ文ナリ意味以
 テ解ルカキトナリ 抑高天原ト云ハ土地ノ名ニテ又無限ニ高キ
 フナニ云フニアラズ 譬ハ人ノ意見ノ美ナルヲ称シテ何高柳御高評ナド
 云フガ如シ春日神祇樂ニ 祝詞ニ 三笠山下津宮根ニ宮柱廣知
 立高天原ニ千木高知リトナリ 詠外ノ祝詞ノ文皆以テ稱ナリ之レニ
 因テ觀テ高天カ原ト云フ尊敬シタム稱ナリ 我々稱寸ノ高キ
 高ナリ又天ニ無限ニ高キナリ云フニアラズ之レを稱寸ノ高キナリ云フ

レテ即チソクヤリ空ニホメテ天ノ字モ用ニ空ニ居ラシテ一物ノ障ル物ナリノ謂
ナリ原ハ野原砂奈ト云フガ如ク原キヲヲミテトツケリ夫レ亦物ノ空ニ居ル
人々ノ身骸ハ高ク坐キ身骸ニシテ其内部ニ空天ノ如ク一知ノ得シヤク平
ラキ安ラキ和ヤカニ廣闊ナルハアリ此腹ニ天津神アリ賜リ名神明宿リ
給フモノトス

一
墓田ノ法ハ精神ノ教ヘシテ世ニミエテガセリ月日ノ法ヲ依スルトキ人ノ命
中ヤサシモ其命ヲ斷リト云フガ如キ拙キ法ニテ又毒ニ信ヘ云フ義也故ハ唯
独ニ戒度ヲ退ケ宸襟ヲ空シ奉リタシ如キ妙所アリト之シ射所特所アルニ
アテテ其人ニ妙所アルナラシ直次用器高キヲ案スルニ座居月日ノ上ニヨリ
沙汰タル由ミテ皆ヘシレトモ六国史江次房辰義武等ニ見ヘテ隱念有テ大
ノ決まり有テ決意アルニヤト月日ノ式沙汰ハ小笠原播磨守元長ノ
信書アリ又伊勢貞丈先生ノ付ヘシタハ小笠原ノ古付ト云フ書アリ
又佛法ニ因リタレ佛書モアレト之シテノ書物歎ハシテノ素前ノ義家

レハ如クシ法ヲ用ヒルニモテカ或ハ精神熱線ニ射倒ニ達シ其位
ヲ占ム武臣ノ作用ノ業ニカ 是先導ニ知ルトヨロサシ民則ニ啓美術
的觀念ヲ以テ法ヲ行スニモ何ボノ効モナカルベシ 譬之ハ此法ニカアルニモテ
弗レハ乃夫ノ道ニ熱達シ天地ニ配サレハ武臣ヲ行ノ其効力ヲ數ハシタキマ
ナリ

一
人々ノ身體ニ前送レ如ク神明宿リ居テ彼神明ト接ラテ邪線ヲ絶
リ眼ヲ致シ理非ヲ思フ決断シ他ノ如クハん事故ノ為ニモ喜リニハん動
カサズ精神堅固ニ善道トミテ寂然ト動カズ堅固ニ正直トミテ
活潑ト用テテ眸子放カズ(意ニアルニ他ノ故ノ為ニモ動カズナリモテ動
搖ニ應ズルハハカカリコトヲ 意ニアルニ正直トミテ只正直ニ本ナリ立ノタムカ
如ク其性ニハルノ端ニアルニ正直ニシテハ死如クニシテ何ゾ用モテサズ所積
規矩ニシテ素直ニミテ事ヲ行眼モ只定ヤルニ思フハ死物ノオシ覺ニ
世人ニ其ノ目ノアキカハ人トモフガ如ク寸分ノ油汗ナクハ眼明ナレバミテ乃夫

此神慮する所ありし軍陣、甲乙に敵ノ上刺、ハツ日調座股ノ根ヲ用ヒ
(履腹ハ八丈中ニテヤカニテリ)最初ノ矢合ニ射着ニユリス之レ他ナシ
踏兵ニモ負傷ニモ愈々ニテアテ金ク義兵ナリト云フヲ廣クホスノ
意味ナリトス之レヲ矢入月目ト云フ又ハ廣ク盛ニテアテ用ユル
已テテ文忠ニ歎ミテリ庵ニテ平考ニ厄石ニ田ヲタル大御神ノ太
神ニ神々通カセテアテ(或ハ塩ノ如ク射着ス)此武沙儀ノ利
吉物アテ筆記スルハ炊ハカニ煮テ食フ)射着スルノ主意ニ我々カ
祖神天孫ニ供奉シ天降リ降シテカヲ身軀ノ健カニ精神ハカ
道ニ入リ切テ放ツ夫ノ如ク速カニ生シ出ズヘシナリ射着ハ此務ヲ
生テ此物付スルノ觀念ヲ一ニ保ツヘシテア教ヘノ初歩トシテ成ルルニ
随テ此治國家ノ為ニ誠ニ生テ固執觀念ヲ堅固ナルヲ教ユ是レ
此神教書ノ基ナリトス

一 八才ニ至リ射初メノ儀、式ヲ考ナシ思フニヤヲ教ユ三思ニ忠孝

こゝに武士道ノ骨髄ナリ古語曰ク民ニ三事ニ生ルニ之ト輩ル一ノ如クス
之ヲ知ルヲ以テ人トシ知ラサルヲ以テ禽獸トス（知ルニ身ノ行ハナリ知ルニモ
身ノ行ハナリ知ラナリモ）我が國ニ古代ヨリ名ニ成レヨクし武士道ヲ稱スハ漢字
ヲ和製トスルモノナカバ漢籍ニ五倫ト云ヒ又五常ト云ヒ又禮儀廉恥ト云ヒ
五教ト云ヒ仁義禮讓孝悌忠信ト云ヒ此地物ニノ名無ク漢ノ教ナキ時
人ノ人タル道ヲ全フセシコトナリ人ノ人タル道ヲ全フスルニ即チ三恩ヲ即チ
祀神ノ名ヲ辱メサルニナリ伊勢皇ノ文ニ是モ云ク武士ノ心同スルニ主君ハ
支那ノフチ知ルモヤ為シテ又清ノ作リ和親ヲ漢ノ為トモナリ人ノ人
ノ道ヲ知ルモ身ノ行ニテ而シテモ為ナリ夫レ人云五倫ノ道ヲ以テ五
倫ノ身ノ行ニ言テ道ト云フ其道ヲ奉シテ知ラシガダンニ即チ人ノ事ナ
リといハレ解款ナカクテ漢而ト云フ其ノ道ヲ奉シテ知レヨトモ其ノ
道ヲ身ノ行スルニ奉シテ同レ其道ヲ身ノ行フ人ヲ名人ト云フ五倫道
ニ督々我作レテ居ルヲ吾人ナリ武州ハ何程遠シタリトモ道ニ督々我作レ

人ノ取テテ不意數回ニカルベシ文ト武ニ執リテ道ナリ(中略)武ヲ爲シテ

人ハ礼ヲ以テ人倫ノ道ヲ示シ人情ヲ得ニ使ヘシモノ也
礼ハ古イテ教布ニ用

巴ナラズ辛キ事ナリヲ、獲テテ、嘗シ又、腹力ヲ、饑虚シ、礼、致テ、守
人、傳ノ、道ヲ、明カシ、國、光リ、揚、グ、ルノ、業、業ナラシ、古、代、學、問ノ、師ト、スル、支、那

人ニア日本に著し國ナリト稱しきに時代ヤト古ナリ之に臣民三思マ守リ
万更ト道變ニ行レシコトナリ又礼義ノ教ハ庶民ニ至馬を禁

未へ盡んコニテし世間ナリ所ト云ハ宗儒ノ礼ト義トヲ正別シテ

但速其他之礼ヲ裁ハ裁シテ之ヲ斷テ、佛系アリト云ケルガハ誤也

六ヶ岳(すしとろ)武内(ふち)礼(れい)義(ぎ)一(いち)命(いのち)海(かい)路(ろ)子(こ)信(のぶ)重(しげ)三(さん)氏(し)

老經ニ上リ客シ民ヲ治ム礼アリ善キニ慕ヒト云ル老僊

礼^レ重^レ承^レ經^レ社^レ稷^レ宗^レ子^レ孫^レ人^レ々^レ奉^レ祀^レ後^レ嗣^レ新^レス^レテ^レナリトス^レ又

北國勢を以て
蘇秦を以て
子行を以て
道しを以て
又界作を以て

私ノ教ヘナリト云ハリ 恭ハ人ニ喜ブラス 己ノ欲ハ誘フ 謹道ニシテ慎ミ事ヲ
控ヘテ止メナリナリ 恭容儀ノ整フテ慎ミ事ヲナリ 敬ニ事ヲ然ルモ輕
忽ナラズナリ 斯ク云ハレ 柔順ニ傾クガ如クモ 剛直ニ決ミテ之ヲ敬ニ武門ノ
儀ヘシテ又覺悟トモシ 又大丈夫トモシ之ノ膽力ヲ堅固ニ爲ナリ 何ゾ
柔弱ニ傾クガ如クシテ 敬ニ極ミテ強ニ盡シ死生戰カテテノ謂ニシテ即
敬礼トモシ 我ハ自ガ伴フモノトス

然テ何ゾシモ原因アリトシテ 國ヲ通佈シテ 我ハ帝國ノ天津日嗣美世ニ
侍ルニ偶々然ラズ 即チ原因アリ 何ゾシテ 壯健ニ見シ事物ヲ事爲テ
然ラズ 標題ニ失念セリ 支那ノ國主ガ天地ヲ掌ル女ノ中ニ帝位ヲ戴トモ
フアルヲ記憶セリ 之レ自己事意ナリ 我ハ國ノ天皇ハ 天津神其他諸々神
ハ整テ於テ恭文ノ中ニ帝位ニ戴テ之ヲ敬ニ之ヲ見ヘカ 人民ヲシテ於テ大
御寶トシテ之ヲ大板トシテ 新舊高麗人ノ人ニ奉テ之ヲ敬ニ諸ノ民
ノ手拘テ已テ於テ之ヲ廣ク仁愛ヲ施シ敬愛シテ之ヲ御據ニシテ人ノ人民

純徳服し、吾を一言ヲ基造望國ナル原國ニレ又衣食住共人民ノ同一
 等シ、雖ハ此ヲ社稷ナリ古書ニ興ナリト云リ故ニ天下平ナリ武士道ト
 云フ道ナリ人民一般ニ國政ニ勝テ一命ハ勝テまり死シトスノ氣性
 義賊ニシテ死シ又振テノ上ニモ利是し衣食住共美ク盡シ己ノ
 利ニトス我國ノ主君ヲ守ルヲ守リ苟モ武造ニ志スル天士ニ思ヘ
 十有方身ヲ犠牲ニ然レ國家ノ信成ス一義勝ヲ負據スコトハ武士
 ノ大礼トシ冥途ノ暗シ著トス鐵着新メノ低武ヲ著テ（舞）紫ニシメ
 執ニテ威儀ヲ實用ニシ事ナリト云テ鳥帽ニ道整ニ礼贈ニ四時ノ
 武衣平素ニ切渾新嬌ニ於テ同胞足リ勝テナレ礼儀ニ欠ク
 ヲ恥トス是意節ヲ著セシノ箭帽より懸フシト云テ又矢ノ道ヲ終テ
 年ヘテ親戚著シケル他人ニ依拠ス之レヲ鳥帽ヲ親ト云テ此人ノ常ニ
 教訓スノ要ナリ又鳥帽ニ於テ實父ト同様ニ素直ス之レハ武士
 ノ大礼トナルト云テ然レ天文ニ事ニ鉄抱内國ニ海東セシテ以早返人

惟此種の類は、戦後、書物と紙が失われ、戦後利用已に講を「ミナリ」し
之は長き古より以後、トト古人云へり

延德縣志卷之四

武道、素より、武術、第一、空手道、何れも、練習、前、後、左右、上下、

ハルコロノ
ケキミヤノ
程神ヲ他宮ニトテ
財礼ヲ主トスベシ
日暮後記

云ク紀ノ時長ハ極武ノ程迄屠ノ時人劣射定係昨美ヲリト又

仲、和武多摩。平城院大同元年、射礼、儀中侍、修儀

武士水ノ邊ノ家ノ子ナリ又紀ノ異道ニ勝長ノ宮弘仁天皇慕

和歌、外に任へず、社礼ノ定儀ヲ守ラト。又古書ニ後鳥羽令、朝朝朝發

一、臺灣をハシケルヲヤ貴し^レバ^ニ其等府々東國に寄テ天下無爲ノ權ヲ

又伊勢貞丈是て昭和元年

小笠原何景度云、ト云ハ、慢リナリ。元皇御承ノ伊ハ、此ノ言ハ、違フ。此ノ言ハ、

[illegible][illegible]

付ナニニシキモノナリ馬鹿野郎ニシテ古書ニ所見ナシバ誤ラシト云ナリ

一 聖懐ノ射礼ニ其節早ク定ムモノハ射礼ヲ遵守スル礼儀トモ若シ其ノ射礼ナシバ古々ノ射礼ヲ用ユ

一 流仲ニ云フ後醍醐天皇ノ時小室宗佳儀將貞宗ヲシテ馬ノ道ヲ一 天下ノ師死タヘリ由教達リ又是則新儀ノ時小室宗良無慮如長壽今川吉里太史氏教伊勢我邦守備忠才ニ余ニモ武家ノ礼法ト定メ

現在ノ儀

ナルト云又聖仁ノ時乳世打座中天文天皇ノ万ニ至リ旧儀ニシテ或ハ之ト小室宗良モ喜ムナリ(小室宗良大政談話大礼ニ依一統射禮今川宗良

二

高宗宗室其他武家師家付小室宗良ト云ト云フノ類ニ見ヘシ所ナリ)

日豐吉田ノ射儀ニ云ク付ナリ今當著ク其振フ射儀ニ古實モ多クハ

後人ノ儀ナリト

一 弓制ニ數儀取アリ所謂 雪落儀印面取道雪取大勢取等儀

今所載儀ハ其儀ノ中ニ見ナリ

射形口付ノ巻ト題セシ書ナリ又其形は付ノ巻ト別セリ又其由
 物等不入道ニ實通公お付日里流ヲノ左事ト別セリ又其歌書
 物セリ之レナ唯大田お目セリ又夢申海流ノ事ニ指南物等
 事ニ社付被立於其ノ事ナリ此書も萬毛が見ニ所ニ付日里流ノ
 書ヲ其教ニ流シタルナリ又射流ノ題ト云言フ各流トモ大概之ノ事
 用ニ由ナリ又道智流ニ淫物付抄セテ其ノ事ト云言フ用ニ由ニセ
 目里流ノ書ナリノ事ナリ物林流大田流ニ射口流事ト云言フ之ヲ用ニ
 小笠原流ニ多ク書存ナリ今行ハルト云ノ射形ハ淫思春ノ付物ナリ
 ナリノ由悉ク見ニト云言フ此物教ニ五部ノ射形而字ノ五部即チ書數
 句輕注ヲ如教ニ流シテ解キタルモノナリ此五部ヲ解キタル物ノ流ニ射空
 而空意解ト別セシ書ナリ一書流也物林流大田流ヨリ令シタルモノナリ此
 大田流當外人大田子被究セ其意ハ此地ノ射流家形容ニ流シテ用テタル
 一多キヲ喜ミ物林流ニ意見ヲ加ヘテ一流ヲ起サシキ此門人太物又其

大にすしきもてし

二八

一 覺悟爲所ノ要領ハ精神體力射中ノ射をテ張爲射前テ位シ
人々道化ノナス所強弱大小智慧定マラズ之レ人智ノ及ブトコトテラセシ心指
ケテラシテ良師ニ隨ヒ熱心ニ練習スルハお前ニ上達スルハ其練習コリ將要
ナリ強弱何者ナリ觀望前ニ込ヘシ如シ體力ハ大丈夫ナリナリ大丈夫常
ニ思ハ念數ニ思ハ面色ノ赤ニ露ルルヲ期ヲ愆ラズ又自家ノ家業或
ハ稼務アルニモ物々不厭ノノ利養ヲ見テ心移サズ又尊嚴スルハ人ノ外種ニ
精力アルニモ座スボナリナリ坦々トシテ以テんテ射スルハ心動ササルナリ
前右ノ付ハ冥途ノ矢トモウナリ又初射トモウナリテ名トモ體力
能深スルハナキナリお前トモ敵ナリ弓ヲ引ヒテ接近シ己レヲ認ツ己
又弓ヲ引テ敵ヲ認フ此所敵ニ定シテ射意ナシテ得ルヤ又も敵ニ定テ
射シ己レヲ射ヲ得ナキニ定シ心迷動ナシ己レヲ射ヲ射外シタル
時ハ敵ハ射スルコト又敵ニ定テ射ハスルハ敵ノ得ル所トモ射スル

只腰方ニアルノ一之ヲ考メケルナリ射中リニ云フマデモ云ク中ラサレバ
用サズサズ但シ中リト云フニ付冥途ノ矢ト云フ教ヘアリ之レ又老ノ
ケ条ナリ中ニモ射費キアレバ又用サズ大強弓ト云フハ自キ力ニ過キ
ルヲ以テ使ヒテ門ケトノフニアタ大強弓モ射習ハバ自然腕力増シテ手慣ル
モノナリ手慣ルレバ強弓ヨキハ論ノ便ナク射術ハ元来中庸ニ必要ナレハ
シトナレバ腕振急激ニ前後左右ニ射スルニ付得ルニ付サレバ又捕ヲ得タル
モノト云ヘサレナリ然レバ射術要シキハ強弓ヲ以テアタハズ以テトモ
射中リ要ク射費キモ應シ、因テテ常射初學ノ強弓ニ射前ヲ先トス然
人ノノ生シ付ヨリテ腕肩背トモ一筋ノモノニテアサレバ強クテ其人ノ不慣手ナル
ナ師ノ好ムコトニ射ヲ重サントスルニテ足踏ム力ヲ發射マテノ解勢ヲ教テモ
結局ハ其人ノ得キニ付モ強弓ヲ以テ中リモナリ射費キモ重ナリテ教テモ要ナ
ク其ノ十數ノ定九ツ吉部神訓抄邊見ノ書用案記右ノ三ヶ條ノ書ニ
云フニ云ハ大同小異アリ又寶文苑ニ云フ大倉本大和版福永堂用抄

射手方宜量有三重に見たる尺寸尺に其人ノ手ヲ以テ定ムルニ
信用スル是古代ヨリお付ノ御説ナリ一短バカクツト之レ定メノ事ナレ何レノ
人モ適當トあつベカラズ此ハヤ誠ナル爲虎ニ不_レある事ナリ爲虎已ミテ
他人モ不_レある事ナリト爲虎ス其主ゾ其家某人ノ定法ナレ何レ
良シト云フヘカズ又射術ノ是ニ決量ノ根本ト定ムルト曰笑ハ武民
七寸をテリ之レ計チテ一束ナリト見ユ又高忠ナキ者ハ五尺五寸
曲ナリナリト見ユ右ノ如ク正ノ流アリテ一空セバ只是疾速ニ見タトコロ
有レ七尺八尺トアルコリ信用スベキコトナリ爲虎ハ仲健セシ流傳ハ手
學ナリナラズ高シナリナリ限ラズ横ニ力モ高シナリナリ圓ナリ
云々此指ニテ尺寸ヲ量ルニテアラズ門ケ高ヲイルトムフナリ門ケ高計ハ
虎ノ一爪爲先ニ適當ナリ先虎ノ手ヲ伸ハレ脇毛ノ奥中ニ突サズ膝
座立ニ立ち矢差ハ上ニ下ナリ格二ヤニ程能ヤトコロナリ又ケ高指ノ
先ヲマデノ寸ヲ取り夫と西レ一寸ナリ候ヘウ己ガ矢索ノ寸ナリ

云々ナリ弓ハ己ガ矢束ノ二丈ニ曲尺ニテ二尺ヲ加テ矢束ニテ七丈ナリ此ニテハ五丈ナリ之レニ武尺ヲ加ヘテ七丈ナリ之レ高思堂モ射脚ノ光ノ二書ニ云フトヨロニ通書ナリ此係筑何レノ人ニモ教ヘテシカ但し者書ニ見テモセテ何レノ吹弓力ニテハ誠ニ今當ノ弓ハ七丈ニテナリサレド今令七八丈ニテハ意取リテ高ナリト云々矢束ニ武尺九寸以上ニ門ノ下ニテ毎段ニ門ノ下ニ吹矢久シク保ツベカラズ乃テ鋒返ヒテ撃テスレバアルマデモ但し五丈何ナカ又合符モ弓ハ別段ノ弓ナリ又手軍モミト云フト人ニヨリ身長々ノ割ナリ手ノ長ナリ短ナリ又肩幅ノ廣キアリ狭キアリ又手ノ甲長キ甲短キ折ノ巾ノ廣キアリ狭キアリ之レ國ニテ手軍ナリト云フハ要モ此ニ適セサルナリ

武内子平素其心得たるヤ、切腹ノリニ付、所々行じしよし、時ニ際し又云
 必至し、我しに初志者ニシテ、腰刀割りたる者、其地ニ歸し、心ヲ動搖し
 或強固ニテ、振所相違ふモノアリ、之ヲ所ヨリスルハ、是ヲ其故ニ、此ヤ身ヲ正シ
 我し、振所太息ヲ應じ、手吸迫して、一層、此等、其心、而して、心、陽毛、所、
 平穩ニシテ、且、田ノ氣、テ、竹、ハ、フ、テ、寧、ト、ス

國臣、取、武、武、道、即、チ、其、笑、ノ、道、ヲ、信、ス、夫、アル、カ、モ、其、速、キ、心、得、シ、ト、云、夫、天
 神、ノ、神、體、ヲ、モ、其、ス、マ、キ、ニ、誨、リ、マ、カ、ス、乃、其、神、ト、一、般、ニ、弓、矢、ハ、幅、ト、云、ト、
 八、ノ、ア、ス、ハ、口、齒、ニ、折、リ、テ、白、ス、モ、其、カ、セ、ト

天照皇太神宮、高御產巢日神、八幡太神宮、此ニテ、大神、ナリ、時、性、一、統、ニ、

柱、ノ、大神、ト、ス、此、神、ノ、御、事、所、ニ、居、ス、ニ、據、ル、ヲ、お、云、ん、道、ナ、シ、而、シ、テ、
 惟、ハ、古、昔、江、ニ、云、テ、爾、天照皇太神、聞、警、命、中、其、管、民、長、通、者、
 入、之、數、所、至、而、入、之、數、亦、所、取、佩、伊、都、之、竹、籥、命、弓、腹、振、ル、而、ト、テ、

此、神、ノ、御、事、所、ニ、居、ス、ニ、據、ル、ヲ、お、云、ん、道、ナ、シ、而、シ、テ、
 惟、ハ、古、昔、江、ニ、云、テ、爾、天照皇太神、聞、警、命、中、其、管、民、長、通、者、
 入、之、數、所、至、而、入、之、數、亦、所、取、佩、伊、都、之、竹、籥、命、弓、腹、振、ル、而、ト、テ、

之し乃笑と云つノ見元初ナリサレバ云々ノ大御神タルヲ海ニ俟タス而して大御神
 ノ大御言見寄志す由云國者天祖壁立柱國深遠無限音聲無窮新
 白雲執墜重而伏陪下進し慈し音ハ降下つ古言ニ雲ハナリ又天
 祖降臨降臨ノ言天照帝太神宮八咫瓊之曲玉ハ八咫瓊之曲玉ノ瓊之
 瓊之瓊之瓊之賜て永以テ天璽トシ國領シテ曰々等々ノ千五百秋ノ瑞穂ノ
 國ニ是レ吾ガ子孫ノ王タルベキノ地ナリ宜哉皇孫就テ治メシ行テヤ宝祚ノ
 盛ニテ云々天壤ト窮リナカルベシト茲ニ天津日嗣ノ天紀ト共ニ勳業ヲ既ニ定
 マリテ今世ノ人民ノ遠キ祖神々々天照太神神ノ大御心ヲ心ト事ヘ終其子
 孫モ今世ノ己ガ祖神天照ノ事ナリナル御心ニ是ナリ天孫代ノ末ニ是ナリ只
 一世ノ如ク神ノ御心ニ隨ヒテ事ナリナル御心ノ道ナル之レ我ガ帝國ノ
 玉座ナリ瑞穂言々ハ瓊瓊之句ニガ如ク曲妙ヘテナリ以テ天カ下ノ政ヲ治
 ハ思鏡ノ如ク分明ヲ以テ山川海系ヲ看行ハレ能尊尊ノ叙ヲ提テテ
 天下ヲ平ナリ云々云々利セシ政トナリ八咫瓊ハ身未曉ナリ表レ終テ能尊

如ク瀛洲に徳ヲ以テ天下ノ政事ヲ周シ召スヘシ田妙ナリトカニカニナルヲ云フ
 道ニ一定ノ直ニアラズ事如ク隨ヒ時宜サトル則時ニ中スルノ道ナリ白銅錢ハ
 正直ヲ表シ路ヲ錢ニ如ク財ハ私ノ心ナクシテ公家ヲ照ス。是非善惡ノ決
 斷ハ是ト云フナリ其法ニ時ニト感ズルモ徳トモ云直ノ本元ナリ錢ハ兼リ
 明チ形トモ心性明ナリトモ慈悲救済ハ其申ニテリ錢ノ如ク分明ナル正直ノ智
 ヲ以テ更ニナル路ハ朝ニ信邪ナク野ニ道順ヌナク改道ナキ直ニシテ上下ノ心
 通達シ善以テ各異道ヲ導ヘシトナリ至直ニ決斷ヲ表シ路ヲ至剛善惡ニカク
 トナリ四ノ和聲斯傳ノ心融テ融シテ外ニ邪惡暴逆ノ賊性ヲ誅シ身心政事ニ
 至スルヲナヘテ正直ノ路ヲ自ら感ナリテ天下ヲ信服セシメ路ヲベレトノ大御心
 ナリノ如クナレバ人親ナク故ニ善ヲ慕ナリ感ナレバ下侮ニ故ニ善ヲ剛ナリ曲ニハ教ヘ
 行ハルズ故ニ善ヲ至直ナリ誠ノ如ク善ヲ至直ニハ身ヲ治テ家ヲ齊ヘ國ヲ治テ天下
 平ニスルトコ氣ニス之レ所謂至善ニト智仁勇ニシテ物ノ形ナク濟實ナリ以テ
 天下ノ治道ヲ天孫ノ所示シテアセウレタルモノナラント

高市産葉日神又ノ御居ハ高木ヲ神ト云フ御居ハ如ク盛大ナルコトヲ主リ後ノ所
大邦ノ御事蹟ハ歴史ニ徴シテ明カナリ

八幡太神宮ノ御米獲ハ三穂アリ其後仙臺改直ニナリト云ヒ又神勅書云カ新
羅・遣唐ノ所ニテ御帰朝ノ時吾馬市積八波シテ獲レシ金幣ヲテ紙俵ニ裁キ
務重ニ紙俵ニ穿テ紙幣ヲ守リ長ク其國ヲ防キ守護致スヘシト教レ玉ヒカ
故ニ五穂ヲ裁キ神ト祀ヒ八幡ト崇メ奉ルトモ云ヘリマレド世上ニ慈悲仁天宗トナリ
ト云ヒ太神ハ為美ヲ用ヒ後ニテ外國ニ征服遊シテテマササレハ高麗百濟新
羅任那チ朝鮮ト云テ又其國ニ抵抗雖ゾエヤテ求メテ之ヲ裁テ然カ國民
ニ其精量ニ云ヘシ又王仁所直岐ガニテ多文教ヲ記シタルゾナリ天照太神ノ
大御心如ク弘ク御仁量ヲ施シテ後ハ御威勢勢盛ニシテ馬矢ノ道ノ眞理ニ適當シ
ゾル御神徳ニテ因テ馬矢八幡ト崇拝シ奉ルナラン之レ又御書蹟ノ詳細ニ應キテ是
ヲ思惟スヘト也

我國ノ古代ヨリ國民志氣ノ氣象ヲ看取セシ物即大伴ノ二氏ハ吾輩ヲ我カ職掌ニ

レ之と所命スルハ新撰武士とテ此武士ノ邊ニ遣ハ即チ武士遣テリ云々家ノ起リシハ
貴卿ノ子中常仁昭ヲ武士遣テ起シテ云々兵聖大ニ云々
ノ家ヲ起シテ親朝ナリシガ親朝ハ總進補使ノ官ヲ賜テ天下ノ權臣トナリ
政治ヲ掌リ永御ヨリ大ニ中座ニ坐テ官務家ヲ招キ政務ヲ敷キ云々云々乃
夫ノ道ノ礼式モ未ダ前ヲ朝建ニ行ハレタル大解ニ於テハ鎌倉幕府朝建ニ行ハレ
ルノナリシガナリ云々夫ノ礼式モ親朝ガ自己ノ權威ヲ作シテモ云々云々親建ノ礼式モ甚
ク云々ト云々云々之レガ同ク鎌倉幕府朝建ノ自ラ号シテ云々云々幕ト云々ト云々云々
ハ兵聖ト云々云々自宮ヲ定メ幕ヲ名付起リシ理由アリト云々云々自ラ云々云々
ノ條見ルモ起リシモノナラン

常射之心得

定體

一 足踏しノ事

之ハ元來形ナシ何トナレ騎射馬
故ニ無形ヲ根本トス然レモ的前初學者ニハ活動ヲテハ叶ハズ故ニケ条ヲ據ル
テナリ足踏ムハ身得ヲ堅固ニ保ツノ基ナレハ身終ノ据ラナク射零ム此形
ナ外ハ文字ニモフハトモテ文字ノ筆意ヲ執ルベシ兩足ハ官ノ踵趾ハ高計ヲテ
以テ定ム高計トハ己ガ矢束ノ長クモ大矢束ニ前ニ述ベシ如シ然レテ
ハ矢束ニ踏ム間々タル兩足ハ親指ハ爪先ト爪先トノ官此矢束程モテ良シトス
乃兩ハ精神上ニ激アテ下空虛ニ感モナクハ全身ニ力ヲ入レ氣ヲ滿タシテ勿論
ト云トモ其心得ヲモテハ右足ハ踵ニ力ヲ入レ左足ハ指先ニ力ヲ入レ膝ハ以何ニ伸ビ
テ強ク踏ムヘシ亦一槩ニ強ク踏ムニ偏ラズ之ニ激リテ琴柱ノ膠シテ琴ヲ彈スルカ
如シ能ク思慮スヘキナリ

一 踏ノ事

之ハ兩膝ヲ居リて兩足尻先ヲ揃ヘ跟ニ跟テ膝ヲ付テ射ルナリ亦浮立跟ト云フアリ
之ハ膝ヲ踵ト離シテ兩膝ノ頭ヲ居ヘテ射ルナリ亦片跟ト云フアリ之ハ左ハ
膝引テ居右足ニ移テ踏ミ尻ヲ腰迄立テテ射ルナリ之ハ皆身ヲ轉ノ極
リヨキト云フナ主トスルモノナリ

一 胴作リノ事

之ハ射物ニ向ヒ指撥ナリ退キテ反リテ居ミテモ懸レシキ亦直ニ與テ
高ヘシ頭ハ平膝ハ伸射物ノ方ニ向タルナリ可トス之ヲ精心上ニ凝メテ下空虚スル
モノナリ膝下ニ力ヲ入レテ氣ヲ滿シテ金ヲ握リ堅固ナルヲ肝要ナリ足踏ハ心意ト
云フナリ

一 腰諸ノ事

之ハ胴作りニ付テハ膝下ニ力ヲ入レテト云フナリ必要ナク条ナリ之レハ
腰ヲ少シ右ニ捻ル（シ）斯ルニ腰ノシマリヨキナリ

一 身規矩ノ事

之ハ足踏脚作り腰諸ノ調所射物ト其規矩備ハ所アリ之ヲ身規矩トス此根本ハ矢壹々志スルニ備ハル所ナリ是ヲ縁ノ位ト云フ縁ト云テ引タル如キ氣ヲ云フ意ヨリシテ形ト現ル形ナリシテ氣備ハルナク先外ナク而シテ内ヲ調フナリ

臨 射

一 弓構ヘノ事

之ト云テ是ハ形ナリ何レトナク時ト所トヨリ便利ヨリ構テ了テ根本ト云ナリ然レ凡習ニ法則ナクテハ便利ヲテズ故ニ常射弓構ヘノ形ナク迷フ前ノ致テ余調ヒテ射物ニ向ヒテ弓ノ下張ヲ左ノ膝以テ便ニヒテ手ノ肩ヨリ指先ヲテ踵優ニ構スレ斯ノ如クハ身通り前ノ方ニ上彌少シ傾テナリ但シ弓手ノ腋中安伸スルニテズ又屈ルニテズ能程ニ構フニ偏リタル懸レ膝ノ弓構(之ニ射ト差別ナシ左ノ膝以テ之

一 懸ノ事

然ハ深ク強クハ腕ヲ少シク折リテ懸スレ居リトテ度ヲ還ホリテ又懸キ
主ノ腕ハ人差指ノハラ中ニ住ラヌトス人差指一本ハ伸ビテ主ノ羽中ニ
添ヘ大書指ト主名指トハ親指ノ外ニ置カズシ 脇骨トテシカニテ大
指ノ節強クハ屈テ程斜カニシ 鎖鎌ノ上ハ言渡ニ迷ハカクテ味ニ出ヌ
セシ且強キ手ヲ弱ムニ打物ノ振リ握リタルニ事シ故ニ常射ト云實地
心得ナクハ武術ニテテ死地ニ入テ受候スベシ 脇骨ノ大事ハ氣ヲ以テ表
端トス

一 常掌ノ事

之ハ五ノ指ヘテシタル併ノ手ノ中ニテハ常快ヨカニス 仍テ握リ表ス「ナリ」先事
羽ノ近クテ本甲五寸遠クテ六寸トスル「ナリ」此中ヲ取テ五寸五分トシ
左手ノハ腕ヲ少シク伸テ大書直ニ親指ノ根ノ節ヲ五ノノ外側ニ當ル
位ニ握リテテテ握リタル親指ノ根ノ骨ノ方五寸五分程懸シタル所ト

本中ノ側本
羽ノ近クテ
五寸五分
五寸五分
五寸五分

上ノ距離等五寸ハ五寸位下ノ

眼 毒

見後

之ハアノ物見ナリ射ヘキモノヲ見渡シテ己ガ可撃力ノ到ルキカ到ルキカ
 ルカ又拉撃シノ及テカ及バサルカ審カニ見極メテ然ラザレバ流シ去リ射
 ン様定テ百數ノ空リを的ヲ射ルニ先決ヲ見出ルニ及ビテ其ノ強
 弱ニモサレシ拘ニテ然レバ跳シ其ニ臨ミテ的ヲ見渡スニ是レ其ノ物見
 敵ヲ見渡ス所ヲ也ニ合フベシ假令ニモ此ノ事ヲ先決スベキナリ

志大物見事

之は是後レテ矢吹サ完ルケル上矢ヲ盡セテ矢所ヲ盡ス物見ナリ此時眼
ナヒテ弦ニ手ヲ懸テ折振クナリ此物見別レテ至新ク肝要ナス

徹夜物見事

然多運動ノ見解ニテ射納ムヲ物見ノ形ヲ異ナラサシム可キ物見ノ心算ニ異

後チレト云モ此所へ引渡シテ奥堂ニ其念慮微塵をテ肝要大前ニ眼ヲヒカケテ
フニ此所ノ念スヘキ爲テテ後頁ノ骨髓此期ニテ動カレテ山ノ如シト云フコト
ナリ

一 始末物見ノ事

此物見ハ付着シテテ倒テ其後ハ始末ヲ見定メテ假令ハ敵ヲ討斬テ
止メ刀ヲ刺スニ寄シ始末ヲ正メタル情ニノ物見ニテ終テ叶ハル儀ナリ

勿論氣解共至極ノコト動カサル丁山ノ如クニアスンバ射取ルモノ有様ナ
見届ムアタラス之ハ始終ノ大事ナリ元來物見ハ夜方スルニ及ハズ始終同儀
ナリ低クニ微易ニシテ行ノ指標ニ對テ正メテ心ニ其詞ニ故ニ其法ヲ
テ立ツルマデナリ

一 心眼ノ事

心眼ハ詞ニ違ヘカタク異ニテ書レカテ其人ノ心眼ノ儀ハ所テ根本トス
重自傳教明ニアルコトテ服膺ノ大事ニ迫リテハ自然妙所ニ至ルベシ

内受定ニテ
前ニシ

調
調

調
調

一 打起シノ事

調

調

但し射物ヲ見ル先打揚ニ時奉テ射物ヲ刺リ引後シテ奉ノエ弓ノ
外前ヨリ見ル上ケ下ケハ弓ノ後弱ニテ一定シカテ然レテ心眼ヲ克テ
用ケタトモ技ニ遠不及ニテ中ヲ得又林克ヲ調ヒテ心喜動シテ
氣塞リ要明ヲ著ス時ハ勿論中ケ得タレバ解相引キレテ
彼レ矢ヲ内境ニ受テ止タリ此處機ニテ目瞬口カス己ガ為ス矢重ク見
故テ矢射實ヲ斷ナシハ心眼ノ為メト云フヤカテ故ニ心眼ハ其人衆明ノ
期ヲ俟ツノミテ所或ハ望望ヒボリヌノ數ト深ク心カフカ

負文先重ニ云テ打揚ゲト歩立ニ云テお起シト弱射ニ云テ方射ニ打
起シト云テ放實ニ遠ヘトセバ歩射ハ打揚ゲト云テ方射ニ遠ニ通
お起シト云テ習慣ニバお起シト云テ此事故法ニ色々所行シ
凡當流ハ肩入レトテ己ガ力ニ及バザル程ノ弓ヲ一張ニモセヨ二張ニモセヨ

川越しヶ此所ニテ弓ハ「ヨキモノト覺悟シタル所」以テ打起し「根本」より
サハ「婆形」ヲ「拘束」キテ「うて」之レニ「勸導」ス「看」ミ云フ「已」チ「起」ル「沖」チ
起シ「ニ」エ「カ」ラ「ス」揚「チ」起シ「烟」ハ「上」ル「ガ」如ク「ス」ベシ「チ」起シ「ラ」シ「テ」腹ノ
川「は」云「フ」アリ「氣」ヲ「滿」タス「ハ」腹ノ「」は「云「フ」ナレ」又「起」シ「裏」シ「テ」弛「マ」
リ「テ」事「能」シ「リ」トモ「持」圓「ル」フ「」ア「カ」ル「ス」達「者」ス「ル」フ「」ア「カ」ル「ス」之レ「射」技
根本ノ大事ナリ、

一、招手事

押手ハ人ノ生後ヨリ一握ニ云ヘシハ腕ヲ掌伸スニテ女寛受生モア
ズ差肩ナル要ク入肩モ要ク肩ハ如所ニ落スト心指臂ノ力ヲ入レテ
只ムタヤカニ押スベシ臂ノ力ヲ入ルハ腕全體ノ力入ルニ屈曲セサル者ト大
令名指サ一本伸ハレ大指ト令名指ノ岐ニテ押スベシ手ノヒラミテ押ス
バカク大人ヲ指サ一本伸ハスハ手ノ中當リヲ指ノシマウ親シク握ル
ニヨリテテテテ押ス心得ハ大指ノ根ヨリ懸ケテ肩口縁ノ切レル程ニ

肩ノ骨ノ上ニ
 肘ノ骨ノ上ニ
 腕ノ骨ノ上ニ
 手ノ骨ノ上ニ
 指ノ骨ノ上ニ

押スベシ或ハ此所ニ肩口ヲ落シ押手ヲ數々落ルノ時伸ビテナク儼々
 トスルヲモテ此鎖鑰ノ上ハ自前ト安ラケク後ノ聲シテ思ハズシテ聲シ
 口連カニ押サルナリ此所伸ビテ要クルモノニ至ルナリ但し初聲ノ人ニ示スニ
 始メニ要カニ強ク押スベシト教示ガ日シサレ此鎖鑰ノ上ハ自前ト
 何事ナラナリ即中ニ得ルナリ矢數重テ之ハ金持ナリガナリト語ル
 ノ外ナリ

一 勝手ノ事

勝手ハ勝技ノミナラズ勝ヲウレ右ニ捲リ小腕ヲ新形ナリト打テテ
 ナリ有ノ肩口ノ上ニ有テリ時此肩ヲ下ケズ其傍ニ急ノケテ小
 腕ヲ上ニ捲リ肩口ノ上ニ有テリトハカズリ時肩口ノ上ニ捲リ
 ノ方ニ引廻シテ急ニ肩口ノ上ニ有テリトハカズリ時肩口ノ上ニ捲リ
 ノ上ニ有テリ肩口ノ上ニ有テリトハカズリ時肩口ノ上ニ捲リ
 外ニ向ケテナリ

一 弓狀ノ事

之ハ打起シテ時高ナリ被カサテ強キケ山形ニテ又引ケケハ山形ナリト此時弓ノ狀ナリ上端少し後口ニカケキ下端少し前ニ出ル而キ押手後手遇不及テ釣合能ク固カニ引合ニ随フテ弓狀強形共堅クモセズ伏シモ大強ク備ルテ可トス

一 文字規矩ノ事

一文字ハ正ニ一文字ト横文字トニテアリ前ニ述レ如ク足踏シ胴体ヲ得能ク能く自負ル正ニ一文字ナリ押手後手兩肩能く自負然様一文字ナル此文字ハ番匠規矩準繩ニテ剛クモ柔クモ文字ヲ以テ居ラヘレ墨ノ濃薄強弱ナク柔武ヲ兼レケル如キ一文字ハ其形ナリ傳ルト莫一文字ハ筆ノ意ナリト死物ト云フベシ書ニモ此文字ハ俗令筆ノ濃薄銳軟アリ其狀ナリ是悉シシテ書法ニ述ベカキ筆勢カアリテ活起ス其意取テ之ニテ一文字規矩大事ト亦此一文字ハ先後神用アリ正ナ

振ふしう其定轉頭をば振一文字と調ふて圓く振一文字と以て
 務下へし但し用テテ所ハ專テ振一文字ニテ

満 固

一付ケノ事

之ハ勝手ノ中ノ右肩に振先付クニ付テ云フ振打振テニ打起し
 勝手ノ肩ヨリ懸テテ肩ハ落し出し小腕ヲ新振ニ折し折ハ山形ニ
 円カ大馬ノ羽サシテ大地ニ下リテ時ノ秋テ如クノ如キ振先
 肩ニ付ケ持國ニ付テ但し其付ケハ凝リテハ固ムハ振テ折テテ固
 ムト云フモノニテ甚不可ナリ亦強ト合テ固ムモ不可ナリ唯安
 ラカニ持合テ固ムモナリ又兼源自能ノ期ニ至リテ又ト固和シテ
 持國ニ至リテ兼上ノ付ケニテ又亦生績ニ至リ振先ノ付ケナルモ
 アリ之ハ其付ケテシテ可ナリ

一肩形ノ事

之ハ勝チ弱虎大ニ下リ六種ノ害アリ赤強ニ上ニ害アリ黒ハ脆劣
折ニテ鉞致ナリ弱虎易カキ背ノ方ニ引廻セバ其力モ増スベシ易カ
マキハ引廻不及出スル瀕固ムルマキハス能ク滅煉スベシ

一 肅リノ事

之ハハ押手後手易カキ引廻不及ス瀕テ固ムル云々肅リハ心氣ヲ抱キ
引テ技ヲ弄ル云々技拙キモ心氣ヲ煩乳スルモ其故ニ先技ノ前リテ
肝要トス教養ハ心理ヲ先トシ其用意ニカレベシ

一 塩ノ事

之ハ矢ヲ撃テハ節中ヲ指スノ名アリ引連強弱甚程相ツナス
言語軍力ノ及ブヘキ事ニ至ル射物ノ念慮淡リ技調ヲ最ト思切リ
ル所共一大事ナリ塩塩相節ニ中ニサレ引連不及ナリ其失道
勢ヲ失フサレ矢ヲ盡スルノ期ノ大事若塩相ニ引ルノ能餘ハ夫肝要
ナリ

心 氣

一位ノ事

之ハ心氣ノ態度ニ一氣ノ大事ナリ敢テモ之ニ随テ行儀ヲナス位ハ
世居ノ一ミ古語ニ千座系天ノ盤座ト云之レナリ馬鞍ヲサカサト云之
馬上ノ坐ニナリ座ハ先心ヲ丹田ニ銘メ又氣ヲ腰ルベシ氣ヲ
腰ニサレバ身終ニ弱ク其力ナクシテナレモ氣ヲ腰ルト息ヲ鼓ムルニナレ
氣ヲ滿タシムルナリ若余モ悟ラズアルヲ銘メズ

一 澄シノ事

之ハ心氣ノ事ナリ所ニシテ他事ナレト云其指條依據セザル者事ハ
壯健シテ心氣ヲ塞ク故ニ心氣安穩ナラズ清心ノ位ニ至ラサルナリ又
枝節ヒタリトモ心氣迷動スルナリ又老ガナルニ養ハサレテ膏國ニナル
ベシ之ニシテ潤ヘシガ為ニ流流或ハ老ノ清心ニナラズ心ニ云々名々依リヤ
外觀ノ清心ヲ潤ヘナリナリ之レ心氣ヲ潤ヘシ依テ玉ノ清心ハ射物

而チ一矢番に弓構へて一ツ打起して一ツに國ヲテ一ツ射放アテ一ツ
三ツはふ夫番に弓構へて一ツに國ヲテ一ツ射放して一ツに規定せず
之を運活に心算し主として一ツに敵ト相鬥して至終は運勢が失ふ
餘カナリ一棒ノ如キト云フ止ルノ一

一息相ノ事

息相ハ一大事ノ低ナリ審固持満調練シテトモ息相調ハサハ必
ナリ若クハアタハズ心算共ニ平カナリサレバ易技ニ遠不及出東テ勿論
矢色迅速ナリ又心中ヲ清大故ニ息相ノ大事ナリ清大以テ審固
ベカズ自覺ノ聲明ニアルノ一但し願ハク古ハニ精練妙何ナル事故
ニ運動を沈着にシテ呼吸迫ナリ一息ヲ時ハ失テ察ルルヲ期シテ
節スベシ亦守戰ノ場合ニ於テ矢放テ急聲スルニキ其息只
熱湯ヲ飲キ冷スガ如ク口ヲ閉ぢテ息ヲ継クベシ必カ口ヲ大ニ開
キテ腹中ヨリ息ヲ突ヘカズ一息ヲを節シテ一呼吸要ナリ

一 氣諾ノ事

之ハ諸國ニテ念慮射物ニ決リ連連ノ言其位ニ取テ節ニ到ル
期ヲ謀テモア射術ノ念慮ヲ達スル所者数ノニテウ者ナカウ米
謀ノ十カナルハ餘力盡キテ運籌ナク又九カナル可トス夫ノ勢ス
少期ニ拿勢アリシ一ヲ肝要トスルナリ九カノ勢ハ失勢ナリトナ
ルナリ満ト未滿ノ理ナシ銀價ノ尺シテ大橋アリノミ

一 氣諾ノ事

之ハ審圖持論深遠ナリ其念慮失壹ニ決リタル所ニ勝算ノ一太事アリカ
故ニ大切ニ迫リ却テ疑ヒテ生ズルモノナリ疑ヒ生ズルハ先聲ノ心ニ事
穩ナク又輩ニ遠ク夜半ニ失所ニ中ヲ得ス又先聲ノ理ヲ得テ又故ニ
夫ノ勢シテ是トス毫毛ノ疑避ナク死生ノ地合モ能シ彼者ニシテ
善ト思フ所ナシ徳ルベカラズ

一 響ノ事

長上教
金剛經
法華經
楞嚴經
華嚴經
維摩經
妙法蓮華經
法華經
法華經
法華經

之六押手放レ弓ノ道強ノ道矣解條金ナク一致満圓を發ル
所當トナルナリ運籌ノ節ニナル所ヲ云フ其ノ技ヲレモ倚倚ナルトハ
決シテ御者ト云フモノナラズ其條御者ト名ヲ付タル所深ク暗クハ唯
シテ音ノ仰山ナルヲ云フニアラズ弓氣身同和スルトモハ自ラ御者ト
ナリ強キニモアテ大知解弱トモアテ大知解強トモハ自ラ聲明スヘキノ

發射

一放レノ事

之六調攝ノノ条ニ述ベシカクヲ押手氣を満圓心氣同達し心雖決定シ
テ放箭之レナリ喻ハハ押手ノ手ノ内ニナルニ隨テ箭多ノ斜ヲ指モ同和
シテ諸レマリ其聲スヘキ期ニ至リ一念ナク切ツテ放フ即ケ前途ヲ
ル氣雖レト是令セテ入レ或ハ放レハ箭子ニアルト云ヒ或ハ放ツテ
知テトモアテ發進不及ヲ忘レテ放フ條自ナリ之条氣レハ箭子ノ
主ル所ナレハ箭子ヲ一ニシテ押手ニ隨ハズ其ノ矢所達トモ別

矢也。正しき矢又射手より放すハ、射手ハ射せしむる所、此處に矢別レ
矢也。正しク矢勢弱し何レハ何レト云ヒカテ、或ハ其人ノ射其器
仍レ定マサル儀ナリ。唯法則ヲ云フトモ、射手、射手同ク、一物子
ニルヲ以テ放シ、多トス。唯統一ニ放ルノ外ナシ。又放シノ時、勢ヲ云フハ
繩より合ヒテ、其中ヨリ勢をガクシ之レヲ理解トス。唯射手、射手ハ
銅鑠ノ上ニ任セ、矢ハ演ヒト急、情ナク心ハ先、塵モ物ナク、其期ニ至テ
條念ナク射スベシ。

一
矢色ノ事

之ハ射放ア矢ナリ。然レ、曲直ニ云フ可シ。矢ナリキト云フ矢也。ト云
ナリ。弓矢身一致同知シテ放シ、最上ナルモノハ矢勢尖クテ、矢勢ハ
カタキ勢アリ之レヲ矢也ト云フ。勿論放シテ中ナリト云フハ矢ノ出
勢ナリト云フト云フニ至ラズ。矢ノ出、正利運勢ノ場ニ矢也アリ。然レ
ノ勢ナリ。矢ノ出、矢ノ目ニ見スベシ。

一強晉、事

之六弓矢に一致同和テ切ラテ故テ所ニ強音ヲ生シ氣象不可ナクハ
強音ニ先テ或ハスル由遠近ハビラズテ強音ノ位置ニ至テ自然ノ
位置トスル其弓ノ製ニ拘テ氣象同和シテ聲ニ遠近ノナレバ強音
ノ位置トスルアリ弓ナリ強ニヨラテ沙汰スルヲテテ強音ノ振動ハ弓
弦ナルヲテテ弓弦ノ振動ニハ心入リアリ乃ハ事ナク先ハ心ヲ盡ス
聲人ハ平聲ノ聲ニモ中聲ニモナクシテ聲ノ末レハナク聲ニカ如シ

弓旋手

之ハ今世ヲ述グト云フ著事ハ情ヲ作スルニテ其情ヲ以テテ
弓手ハ押入ケ大指ノ指ノ一指ヲ三指ニテ其力倍ナリテ
弓手トテテ其手ニ其切リ放ツ勢方肩口ト腕ト全離セル
ガ如シ弓ハ押入スルニテ其弦ヲ余ラテ翻ンテ求メテス
知ンテス知ラズニテ其技ヲ知テテ其力ヲ以テテテ

或ハ古書ニ大事ノ物ヲ射んと云ハ馬通クスツカズト云フ「ナリ
又但倭ハ支那ハ弓馬イナサセヌ故ニ矢法ニ昧射實キモヨ
云ヘウ若事如何ニ自覚スベキノミ

一 調子ノ事

之ハ前ニ述ベシ機相ト等シトナレバ別シテ云フハ調子ハ放テ
射物ニテ又其候其時ニ隨テ射者ヌルニ遲速中ノ三般アリ
之レ其時ノ調子ナリ機相ハ己ガ心中ニ得所ニシテ調子ハ其カノ
遲速中ヲ云フ機相ナリ則シテトモ調子圖ニ當ラセバ其心中
ナ得ズヤ「内」ヲ要ナリ

一 矢聲ノ事

凡テ我國ニ射ヲ覺スモノ皆其念慮ノ餘勢聲トシテ射術ニテハ
其聲スベキハ茲ソト思ハシタルトキ如何ナル餘石ヲモ射者又念
慮者ニ數ハナリナリサレバ其射者ノ念慮ノ餘ニ聲スベキナリ

但し射術ノ勢ハ速ク射聲レ射實ク丁ニ依ナレバ聲スル所ノ聲
永ク末漲リニ怒ズキ丁ノ實ニ至ルニ止レ其末勢力一寸餘リニ
遠ク聲スルヲ全利ト大但し聲ノ聲スルニ其利アリ聲
節ニ中ラナレバ却テ妨ゲト成ナリ聲何レノ利ヲヤ大快
スベレ

斂射

一念ノ事

之ハ射術ヲ修メテ天勢徹底ニ至テ見定メ假令遠丁ヌリモ己ガ魂ノ
融通トテ其活氣タル所ヲ念スル丁ヲ射ル其念ナクモテ猶二三條
念アル内ハ一捨一失ニ搖動ス決スル丁ヲ射ル大勢多失テ常ニタラシ程
無一ニ至ラズ望明散乱レテ致スルナキモ等レ唯一念ヲ融通シテ
動カザルヲ大事トス前ノ始末物見ト云フモ之ニ相同じ但し物見ハ敵ヲ
射以テ心入テ定ム念ハ心入テ振動シテ物見ノ形跡トナシ其

念明白ニテサレバ若矢ヲ射フアタハス若矢ヲ正置ニ射ハサレバ
 射棚ノ柱ヲ所ナリ来ヨリ矢ヲ當ヘテ若矢ヲ怒マハ一ノ病ニテ
 甚ダ悪シキナレバ若ケル所ニ至ラハ若矢ヲ射テ念慮ノ
 論ニ就レ只一筋ノ矢ヲ冥途黄泉ノ土塵ト思ヒ切テ射テ
 勿論ナレ止ムナレ得テ矢ヲ射テアルベシ一矢ノ念明
 自ニテサレバ若矢射ルナレ得テ念明白ニテサレバ若矢ヲ
 射ル凡死物ナリ發筋ノ矢ヲ常スルモ只一筋ト決定シテ射ヌ
 了念慮ノ明白ヲ正置ガためナリ

一 弓倒レノ事

之ハ弓ヲ射ヌシテ念ヲ達レ弓ヲ手ニ握ルナリ握ル方ハ
 末端ハ身通リ背ノ正置中ニ下リ本端ハ後口身通リ外
 上リ兩走り形ニテ弦ハ弓通リ腕外ニテナリ其供
 時ナリ弓ヲ手ニ握ルナリ通リ正中ノ兩端形ニテ通リ



五寸斗り前ニ据へ夫指膝ノ少し上ノ辺ヲ馬手ニ稱し右肩ノ
外レノ辺ニ斜ニ取り衣履ヲ袖ニへレ外ニ仔細アルニアラズ但し常
射ニ歩ヶ糸ヲ述ルトモモ時計協令ニヨリテアリ倒レテ作セルトモ
アリ兎ニ南時宜ニアルナリ。

大正十年七月三十日午前謹言

常射心得終り

右者河毛勲先生の御指示ニ依り特ニ先生の御許で得たる第一番の打撃

四時弓矢ノ神恩ト云々神恩ト云々又弓矢ノ道ト云々ノ境界ノ前ニ述ビ如キ
 ノ理由アリ故ナルベシ然レ今世弓矢ノ娛樂的ノモノ或ハ運動器具ト云フモ尤
 ガ遺憾ニ感スル所アリ又本弓矢ノ前報衆ニ述ベシ如キ精神ヲ培養スルモノハ正
 次ニテ技術ヲ鍛錬スルモノ無キ礼儀ヲ主シテ勝力ヲ建テ即チ日本魂ヲ維持セリテ根本ト
 シテ教ニテ武器ヲ以テ道ノ古人モ天賦ノ恥ザルノ道トシテ弓矢ノ道ト稱スルベシナリ
 故ニ人成ニ教ニ弓矢ヲ尊重シ此道ノ義理ヲ得テ常ニ履行セ國政ヲ善家ヲ正
 治ニ此道ヲ國家ニ養フモノ又國體ヲ固メ親睦シ家庭ノ幸福ニ至スベシ
 然レ吾人ハ此真理ヲ熟味セテ前述ノ如キ觀念ヲ抱クニ遂ニ懺悔ノ状ナリ

旧時武備ニ志スルハ前ニ述ベシ三銃架等ノ志ヲ會得シ事ニ言存ス故に補佐
 ニ務メシ之ヲ本槍ナリ做ルモ自ニ本意ノ事ヲ知テ傷ツカニテ而テ本槍ノ能
 取テ遊撃ノ方ノ山ノ特長モ出テ其方此特長ニ出ルモ其意トモ心得テ
 實作ルオモ案ノ事ヲ知サシキト其特長ニ出ルモ此方夜戦ヲ合テ予
 テ其例ヲ出シ其意ノ一ハ民オク補佐シ夙夜衝敵モ是ナリトテ其意トモ心得テ

アタリノ形勢ヲ知りテアルトキハ攻守ノ策要ニ依ラセテ計ヲ圖ル山川ヲ踏勘シテ
 身軽ク陸便ナシヨロズ陽ノ前リテ所ノ汚洗ヲ汚物ノ用ニ試ム五ノ三ノ輕
 眼力ノ習ヲ以テ風雨霖雪ノ後々方其他ノ便利ノ法アリ安地試ム六ノ事一當
 ヲ目録ノ後拾ノ敏鋭ヲ試ム二害一ヲ狩獵ノ能ク羅網ヲ金更メテ水路ヲ
 忘ルルコトニテオウ狩獵スルハ力ヲ盡メシ田如ク踏ミ荒レテ願フザ
 オウナリ冬新ノ如シキ秋播キ常ノ人係ノ道切斷シ馬行ヲ禁シ心陰由テ
 若キ種族シ世人ノ權北ナル主我トス此ハ如水六年六月中華使ペルイ星船
 以來天下動搖也トシテ四年治リカタク就ハ河内縣臨ヲ圍テアサキシモ不克
 ノ形勢ニ依リ時代アリ沈陳國君之恩政ヲ施シ降ニ百背國臣ヲ殺シ家祿ヲ奪
 ニ放テ浪人ナキ他家セシムル又忠貞死ク彦家ニアリシカ其體免ノ功勞ヲ
 賜言サモ其子タル其人ノ他家ニ中家ニ寄ラテ謀ケ親ヲ賜フ再興仰付ラシ
 次第下軒アリニシテ中絶者主トス又從士シ武岡ニ寄通テ篤ニ品行

正平より或は勤王ノ勲功に才アリ研士ニ云ふ立ちし家野千野アウ之レハ御怨ミ在リ
カク之レ切渾仁融ナレバ一方ニ我士ヲ皆サントノ主志メテウシキカ右ボノ改ヨウ武士ノ
勢力削取整ヘテ還ガ我々スルノ業門ノ道ヲ導キ私マテスモノアリテウ之レゾノ
果固シキカ今世ニモ旧時ノ武夫如クスレバ脅迫手前ゾ出ルモノアリト又
遺憾ナリトス但し往古ヨリ和漢世ニ乱レトスルハ終リノ所然ルニスルモノアリ
政ニ逆ケル實政事方ニ吾山虎九帝ナリ雖新前ムス亦亦在也衆ニ敢テ也
其後ハ逆ナリボノ就是ヲ仰ウモノアリ然レニ幕府ノ権威ヲ以テスル之レヲ尊ビ
丁能ク全ク世ノ亂レントスル所此ニテ所謂天人人ヲ以テササシメント云フモノ

オアシカ